



郡山小学校 閉校式

2月22日(日)朝9時から郡山小学校の閉校式が行われました。当日は、末松市長、廣田教育長、教育委員会、地域の自治会長、学校運営協議会の委員、PTA 役員の皆様はじめ、多数の方に来校していただきました。35年間にわたり、地域の皆様に愛していただき、ありがとうございました。4月からは名前は天栄小学校にかわりませんが、建物はそのまま使用いたします。引き続き、新しい小学校も地域の宝となるよう愛していただきますようお願いいたします。



記念式典 式次第 (鈴鹿市主催)

- 1 開式のことば
- 2 国歌斉唱
- 3 市長式辞
- 4 来賓紹介
- 5 記念品贈呈
- 6 児童代表のことば
- 7 校歌斉唱
- 8 校旗返納
- 9 学校長あいさつ
- 10 閉式のことば



記念行事 (実行委員会主催)

- 1 校舎内会場
 - (1) 作品展示
 - (2) メッセージボード
 - (3) クイズラリー
- 2 体育館会場
 - (1) マルシェ
 - (2) ミニステージ
 - (3) ピンゴ大会
- 3 運動場会場
 - (1) キッチンカー



郡山小学校 校歌

一 こぶしの花が 咲いている 天にかがやく白い花
 明るくあれよ ただしくあれよと 咲いている
 広いゆたかな 日々の窓 ここにやさしい 芽が伸びる

二 小鳥もさえずる 呼びかける 西や東の 友たちと
 元気に学べ 仲よく学べと 呼びかける
 あおぐ鈴鹿の 山々よ ここにあたらしい 歌がわく

三 冬ぞらけやきが 立っている 幹もこずえも 日をあびて
 大きく生きよ きれいに生きよと 立っている
 英知はぐくむ この大地 ここにすこやかな あすを見る

ああぼくら わたしら 郡山小学校

作詞 中井 正義
作曲 桂 宏

【 学校長 あいさつ（一部抜粋） 】

今から三十五年前、この地に産声を上げた郡山小学校は、この三月末、その歴史にひとつの区切りを迎えようとしています。本校の校区は、古くからの歴史を刻む越知町、山越知町、越知山町、郡山町、そして「太陽の街」として新しく開かれた街、それぞれ異なる背景を持つ地域が手を取り合い、この学び舎を育てていただきました。

私たちの校歌の一番には、こうあります。「明るくあれよ 正しくあれよと 咲いている」、この「こぶしの花」の言葉通り、太陽の光が降り注ぐこの街で、子どもたちは地域の方々の温かな眼差しに見守られながら、やさしい芽として、真っ直ぐに育ってきました。

校歌の三番では、「冬ぞら けやきが 立っている 幹も こずえも日をあびて 大きく 生きよきれいに 生きよ」と歌われています。厳しい冬の寒さの中でも、しっかりと根を張り、太陽に向かって枝を広げるけやきの姿。それは、時代の変化の中でも、自分らしく、たくましく生き抜いていこうとする、郡山の子らの志そのものでした。この三十五年間、たくさんの卒業生が、この大地で英知を育み、それぞれの「あす」を見つめて、ここから羽ばたいていきました。

さて、令和八年度からは、合川小学校、天名小学校の皆さんと共に、この校舎で新しい歴史が始まります。名前は「天栄小学校」へと変わります。校歌の二番には、まるでこの日を予見していたかのような言葉があります。「西や 東の友 たちと 元気に学べ 仲よく学べと 呼びかける」これまで別々の場所で学んできた友だちが、この郡山の地に集い、手を取り合います。校名は変わりますが、この学び舎が子供たちの笑顔を守る場所であることに変わりはありません。むしろ、三つの学校が一つになることで、校歌にある通り、ここにまた「新しい歌がわく」。私はそう信じています。

児童の皆さん。三月末で「郡山小学校」という名前は閉じられますが、皆さんの心の中には、この校舎で過ごした日々が、そして「ああ、ぼくら、わたしら、郡山小学校」と声を合わせて歌った記憶が、一生の宝物として残ります。新しい「天栄小学校」になっても、郡山の伝統を胸に、新しい友だちと共に、さらに大きな花を咲かせてください。

